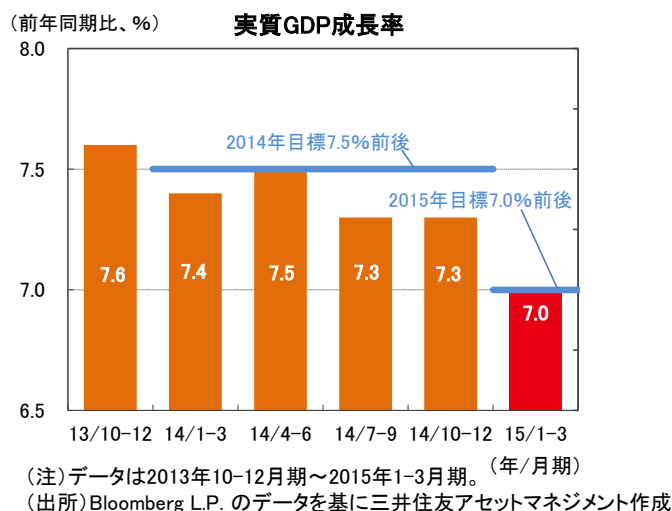


今日のトピック 最近の指標から見る中国経済(2015年4月) 景気下振れで、政策期待がさらに高まる

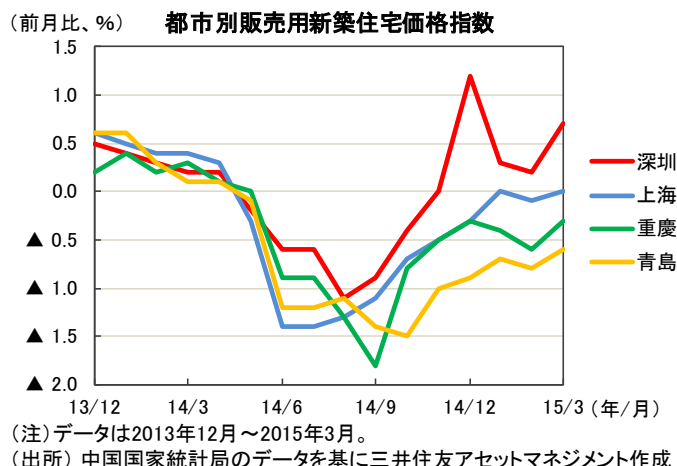
ポイント1 1-3月期は7%成長にとどまる 小売、投資、輸出はともに下振れ

- 1-3月期のGDP成長率は前年同期比+7.0%と鈍化しました。小売売上高は、3月までの年初来累計で前年同期比+10.6%、同じ期間の固定資産投資(除く農村部)は同+13.5%、鉱工業生産は同+6.4%といずれも昨年の実績を下回り、景気が下振れています。
- 1-3月(年初来累計)の輸出は、米ドル建て名目ベースで、前年同期比▲15.0%となりました。輸出は2月までは比較的好調でしたが、3月に世界経済の減速の影響などを受けました。同じ期間の輸入は内需の鈍化から同▲12.7%でした。



ポイント2 不動産市場は改善の兆し 政策効果により、改善が本格化へ

- 不動産市場は、金融緩和などの政策効果により、大都市では底入れの兆しが出ています。主要70都市の販売用新築住宅価格指数は、前月比上昇した都市が12都市と2月の2都市から大幅に増えました。3月にセカンドハウス取得規制が緩和され、改善が本格化する期待が高まっています。



今後の展開 追加金融緩和、財政、成長戦略など、景気刺激への期待高まる

- 中国人民銀行は、4月20日から預金準備率を引き下げ、18.5%(大手行)としました。現行5.35%の政策金利(貸出基準金利1年物)や預金準備率には今後の引き下げ余地があると見られます。景気がさらに下振れた場合には、金融機関の融資拡大や企業の資金調達コストの引き下げを狙い、追加金融緩和が期待されます。
- 政府は、金融緩和に加えて、規制緩和や新産業育成などの成長戦略を推進することが期待され、財政支出の拡大も見込まれます。ITや先端産業を活かして付加価値の高い産業を育成し、労働集約的な経済構造の改革を目指しています。
- 自由貿易試験区設置による輸出拡大や現代版シルクロード(一帯一路)の構築によるインフラ投資拡大も今後期待されます。年内の稼働開始予定のアジア・インフラ投資銀行(AIIB)構想とあわせて、中長期的な成長を支えると考えられます。

こども
チェック! 2015年04月20日 中国は預金準備率を1%引き下げ、景気テコ入れへ
2015年04月15日 中国株式市場の見通し 産業構造変化への期待から、株価上昇

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。